

会 議 録

会議名称	第4回柳川市民文化会館（仮称）基本計画検討委員会
日 時	平成27年2月24日（火） 10:00～12:00
会 場	柳川市城内コミュニティ防災センター
出席者	[委 員] 立花委員、武末委員、姉川委員、草場委員、 椛島（道）委員、安永委員、古賀（理）委員、生田委員、 大橋委員、原委員、勝見委員、今村委員、黒田委員、 古賀（弥）委員、齋藤委員 [事務局] 大坪総務部長、椛島企画課長、野田企画係長、 企画課企画係 江口、松尾生涯学習課長、堤文化係長、 生涯学習課文化係 須崎、 （株）シアターワークショップ 伊東
欠席者	[委 員] 森田委員、古賀（俊）委員、壇委員、椛島（和）委員、 野田委員、大森委員
議 題 等	1 開会 2 会議録の確認 3 議題 （1）2月15日 市民ワークショップの協議結果について （2）柳川市民文化会館（仮称）に必要な機能の検討について （3）市民アンケートの実施について 4 その他 5 閉会
会議資料	資料① 第3回柳川市民文化会館（仮称）基本計画策定委員会での 主な意見（抜粋） 資料② 柳川市民文化会館（仮称）施設機能構成イメージ+WS 意見、 草場委員意見 資料③ 柳川市民会館の建替えに関するアンケート（案） 資料④ 柳川市民文化会館（仮称）基本計画策定スケジュール（案） 参考資料 柳川市民文化会館（仮称）基本構想概要版
次回会議	平成27年3月18日（水） 10時から 柳川市城内コミュニティ防災センター

＜審議結果は次のとおり＞

1 開会

2 会議録の確認

3 議題

(1) 2月15日 市民ワークショップの協議結果について

(事務局より資料①、②を説明)

(2) 柳川市民文化会館（仮称）に必要な機能の検討について

- ・柳川の文化は歴史性がある。水の構図、城下町の構図、まちの歴史について、文化の根っ子となる歴史が見えないと、他のまちと同じ。
- ・展示ギャラリーは、イベント性があるもので、主に市民のために歴史が分かりやすいものが欲しい。
- ・小さい壁でも良いので、なぜ「柳川」というか、「川下りをなぜするのか」など、また戦災を逃れた昔の風景が見られるなど、他所から来た人に柳川を紹介できると良い。
- ・文化芸術の情報をどう提供するかが重要。今の時代、若者が利用する媒体を含め、劇場でない空間を利用した情報を集約して発信するのは文化会館。建物とは別に情報提供機能がないと、客が集まらない。
- ・主に文化関連のことが全て集約されるという考え方だが、新しい市民会館はそのアートセンターとして機能していくべき。
- ・情報発信を今から若い人を巻き込んで企画することが重要。
- ・既存の市民会館大ホールは、25年度の利用件数は46件。満席の1,000人を超える利用は、式典も含め7回。平均すると600人程度。満席の7回の中で鑑賞事業は1回、あとは市の式典。
- ・出演する人を見に客が集まるが、市民利用の際は時間的に制限があり、一日で終わらせようとするので、1,000人を越すようなものはできない。
- ・特色あるホールになると使ってもらえると思う。奥行が狭いホールが多いので、バトンの数・照明などの舞台機構を充実させ、舞台の奥行が広い舞台機構がちゃんとしたものをつくと武器になる。舞台がすごくて、さらに同規模のリハ室があるなど、特化したものがあればキャパが小さくても、他の地域から柳川に来て使ってもらえる。
- ・若い人の考えを汲まないとダメ。
- ・「老朽化したから建てる」ではなく、柳川の特色を生かしたものにしない

- と開館後に苦勞する。
- ・現在は1,000席が満席になるのは少ないが、1000席を切ると興行が成り立たなくなる。ある程度のキャパが約1,500席。
 - ・商工会や商店街の主催ではなく、純粋な興業では1,000席では採算が合わない
 - ・好きな人たちで実行委員会を組織し、それをホールがどれだけ手助けするか。鑑賞団体を作っていくことが、ホールの使命。
 - ・1,000席以上のホールは無駄。市民が活動できるホールをつくるのが最も有意義。
 - ・市の行事、成人式などで使うのは1,000席あるので、1000人に声かけを行うという感じ。800席になっても困ることはない。式典等は案内者を制限すれば問題がない。
 - ・ワークショップでは1,000～1,100席が欲しいという声。また、音の良いホールが欲しいという意見もある。
 - ・大ホールをイベントホール、アリーナのようなものにしたら、1,000人収容でき、何もなければ広場になり、白秋祭ではオープンにして使える。小ホールの方を約400席の専用ホールにするという方法もある。
 - ・成人式の人数、高等学校のブラスバンドの発表会等の生徒数が大体1,000人なので1,000席が欲しいといわれる。
 - ・水の郷の客席は430席で両側に棧敷席があり、平土間。どちらかという講演会、講習会仕様で、劇場ではない。20年前のもので、舞台奥行7m、道具バトン4本、ボーダー2本、サス2本。棧敷席がオーバーハングで、その下にスピーカーがあるので音の条件が良くない。新しい施設の舞台機構は将来を十分に考えてほしい。
 - ・建物でやってみようと思う人達、ボランティアなどを育てることが必要。
 - ・自分が発想したものを表現できる環境をつくって、どんどん使ってもらうことが必要。例えばアマチュアの演劇や高校演劇の全国大会。
 - ・ロールバックで平土間になって1,000人、800人が入れるホールと、300人のホールというのものもあるかも。
 - ・基本の考え方として、鑑賞事業にあまり重きを置かず、創造型の施設で行こうということが基本構想。
 - ・他市では、学会があるからもっと1,500、2,000席必要などの意見が出て、最終的に大きくなることが多いが、そのような時代ではなくなってきた。
 - ・創造型でいったほうが良いのではないか。
 - ・そのための人材育成をしないと活用が難しい。
 - ・現在の美術展は、柳川市民体育館で行っており、地方の美術展としてす

ごいと良い評判。しかし、期間中に体育利用が出来ず、展示の設営には業者を入れるので費用がかかる。また、照明も悪いというデメリットがある。

- ・美術展をギャラリーで行うには狭いため、広いスペースが欲しい。
- ・文化会館で行う場合、2回に分けたり2会場に分けずに1回でやりたい。
- ・文化会館でやるとなるとかなり規模が縮小になるのではないか。体育館であればボリューム感があって話題になるが、半分になると、どこでもやっているようなものになってしまう。
- ・大ホールも展示に十分使える。
- ・アリーナ等にした場合の音響は最初からきちんと音響設計をしておけば、問題はない。
- ・音楽ホールは小ホールで対応してはどうか。
- ・900席ぐらいの上質なものを見られる空間をつくり、100席ぐらいの若者が新しいものをつくれる自由な空間、ブラックボックスという考えもある。
- ・ワークショップでは、柳川らしさを出したいので堀に面した部分を生かした仮設ステージ、雨の時にはホールの中を使えないか、などの意見があった。イベントホールを多目的に使えるホールとするのであれば、水辺に向かって開くことができるという意見もあった。
- ・機能イメージ図はあくまで仮定なので入れ替えは可能。
- ・イベントホールを雨天時に使えるようにするというのは、年間計画では現実的ではない。
- ・水辺から直接舞台に入れるようにならないかといった意見もあった。
- ・掘割を使うというのは面白い。外の広場にも屋根があるとイベントが行いやすい。
- ・屋外イベントは良いが、隣に病院があるので音が出せない。北側に保育園がある。
- ・病院は、時々屋外でイベントをやっている。
- ・ホール機能として、外と内がつながっているのがとても大事。自然にホールに入って行けるような仕組みが出来ると良い。
- ・「温水プールは撤去しては？」の意見があるが、温水プールについては当面維持する。将来の建て替えは予定していない。
- ・近隣に800席の施設があるが、必ず狭いといわれる。フルオーケストラを呼ぶときに入らない、駐車場が足りないとずっと言われている。
- ・駐車場は広く取って欲しい。計画地は、敷地に入るときの動線も複雑で不合理な動線なので、混雑につながる。敷地の反対側にも道ができると

思うが、狭くて離合が大変。メインの動線は西側になると思うので、コンビニと岩田屋に退いてもらわないと無理ではないか。

- ・西側入口をメインとすることは信号の問題もあり、用地協力がないと進めることができない。東側の用地を更地にして、東から入れることを考えている。
- ・大ホールのキャパについて、800席、1,000席という意見があるが、大ホールの客席が増えても面積はあまり変わらない。それ以外の小ホールなどの500人のホールは無理でないか。
- ・小ホールは難しい。今回提示したのはワークショップで出た意見。
- ・基本的なサイズは決まっているので、その中にどう入れ込むかということ。

(3) 市民アンケートの実施について

- ・アンケートは無作為抽出、高校生以上2,000人の方。回収率は約3割弱でサンプル数500件を想定。
- ・「柳川市民会館に来たことあるか」を追加してはどうか。
- ・「文化芸術事業を鑑賞するために、どちらによく行かれますか。」に柳川市内の選択がない。市民会館はもちろんだが、市内の他施設も書くか、選択できるようにした方がよい。

4 その他

5 閉会